

# 1月



2025年

# みやま

第320号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



【写真左より】真島看護部長、村田診療協力部次長、平川院長、堀江事務部長、河合副院長

## 2025年、明けましておめでとうございます。

院長 平川 淳一

2025年は、「2025年問題」として時代の変曲点のように言われてきました。ご存知の通り団塊の世代が75歳を超え、超高齢社会が完成し、一方で16歳から64歳のいわゆる生産年齢の人口減少が急速に進むという変曲点です。街には認知症があふれ、交通事故、火事、孤独死など、地域は混乱すると思われれます。また、若年人口の減少は人手不足を生み、今までの経済規模では成り立たなくなってきます。さらに、我が国が世界に誇る国民皆保険制度や年金も、その担い手である若年層の減少で継続が厳しくなると思われれます。そのためのデジタル化、ICTを進めるとい話がここ四半世紀続いてきましたが、コロナの影響もありなかなか進んでいない印象です。

私たちは地域の顔の見える関係の中でしか活動はできません。とにかく、平川病院に係るすべての人に可能な限りの医療を提供していく以外、道はないと思います。

地域の皆様の健康と安心のために当院は今年も頑張っていきます。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願ひします。

【表紙】院長あいさつ 【P2】令和7年 平川病院標語 【P3】クリスマス会の開催について  
【P4】サンクスカードプロジェクトについて 【P5】(委員会紹介) 院内感染対策委員会  
【P6】厚労省職員来訪について・元旦メニュー紹介・編集後記

## 令和7年 平川病院 標語

当院では毎年、全職員から「標語」を募り、最優秀作に選ばれた標語はその年の病院標語として採用されます。今年の受賞作を紹介します。

### ～最優秀賞～

「患者様の幸せのために真剣です。」

地域生活支援科 科長 石橋 さおり

### ～優秀賞～

「看護が出来る事は無限にある  
見渡そう、広い視野で、見つめよう患者様の人生を」

内科病棟 主任 丸山 千裕

「それ、いいね！」でつながる 楽しい看護

内科病棟 田口 真生

「自分で考え、気づき 行動する！」

看護部長室 瀧森 美穂

「日本で一番「ありがとう」と言われる病院をつくろう」

南2病棟 藤木 裕也

「明日のところに灯火を」

医療相談科 市川 佳奈

「共感の心、みんなへの思いやり」

薬剤科 科長 大塚 晃弘



受賞者と院長



## OT科で今年もクリスマス会を開催しました！

作業療法科 作業療法士 岡本 晃宜

12月に入り、患者様から「クリスマス会はいつやるの?」と多くの声を頂き、各病棟でクリスマス会の装飾づくりを重ね、待ちに待ったクリスマス会を執行致しました。慢性期病棟では入院が長期に亘り、季節感を感じる機会が少ない方々がいらっしゃる為、OT科では『季節』を感じられ、病棟生活がより充実したものになるように季節の行事に力を入れています。クリスマス会では、患者様から希望の多かったビンゴ大会を始め、クリスマスにちなんだクイズ大会、合唱を楽しみました。OT科のビンゴは数字ではなく、『ココア』『イルミネーション』『生クリーム』等の冬に思い浮かぶワードを事前に患者様に挙げていただき、そのワードをビンゴ用紙にしています。中には『失恋』などの単語もあり、淡い思い出が想像されるような単語もちらほら。患者様自身で協力して出し合ったワードでビンゴをする事で、より一層楽しみが広がります。アネックス病棟ではサイコロを使ったレクリエーションの他誕生会も合わせて行い、多くの方がサンタ帽を快くかぶって下さり、賑わいを見せました。



また、普段よりOTを楽しみにしている方、眠気が残る中重い体を起こしてOTに出席してくださっている方々への労いも込めて、ビンゴ大会の景品もご用意しました。景品が出ると聞いて目の色が変わり、ビンゴへの熱量も上がります。一番人気はジュースやスティックコーヒー等でしたが、使い捨てマスクやティッシュも思いのほか手に取る方が多かった印象で、堅実的な考えの方もいらっしゃいました。





### サンクスカードプロジェクトとは?

平川院長より、日頃評価対象となりにくい業務も積極的に行なっている職員を評価できる制度を設けてはとのご提案があり、企画室で導入に向けて検討を進めてまいりました。

各部署の所属長の皆様からいただいたご意見等も踏まえながら、職員間でお互いの良い行動を認識し、感謝し合うことでモチベーションの向上やコミュニケーションの活性化を図ることも目的に【サンクスカードプロジェクト】として実施いたしました。

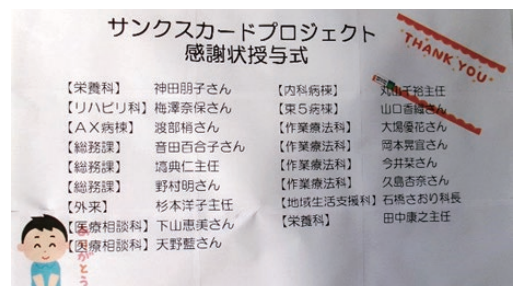
### 予想を上回るサンクスカードが集まる

今回試験的な試みとして開始したため、周知期間が短く、運用期間もわずか3週間ではありましたが、360枚もの素敵なサンクスカードが集まりました。また自部署だけでなく他部署への感謝の気持ちが想定を超えて多数入っているなど、平川病院の多職種連携・一体感を表す結果となりました。

### 「ありがとう」という「感謝の輪」が広がり続ける病院

12月27日納会にてサンクスカードの感謝状授与式が行われました。

今回は、カードをより多く受け取った方、つまり、日々、一緒に働いている職員や患者様、病院のために、小さな優しさ、細やかな配慮を人一倍積み重ねていらっしゃる方に、平川院長より感謝状と記念品の授与がありました。



受賞者一覧



受賞者と院長

医療の現場はその特性から疲弊しやすい職場環境でもありますが。そうした中でも日常的に職員同士で感謝する心を持ち、よい行動について承認し合うことで、モチベーションの向上やコミュニケーションの活性化だけでなく、生き生きと働くことができる職場環境に繋がると考えております。

企画室/作業療法科 科長 土屋 貴裕



Series  
委員会紹介 **院内感染対策委員会** です♪

院内感染対策委員会 薬剤科 科長 大塚 晃弘

### Q1 委員会ではどんな活動をしていますか？

平川病院の感染対策活動は、大きく3つの組織が分担して行っています。1つ目は今回の委員会たよりのお題となっている『感染対策委員会』で、この委員会が感染症発生した時に被害を最小限に食い止める司令塔となります。院内での感染症の発生状況や抗菌薬使用量を定期的に把握し、感染対策の方針を決めたりしています。

そして実働部隊としては、『感染対策チーム』と『病棟リンクナース（各病棟1名）』があり、この2つが連携して患者さんへの感染対策や職員の感染症予防に取り組んでいます。特に、感染症を発生させないために様々な研修会の開催や各部署へのラウンド、感染予防のポスター作製、患者さんや職員のワクチン接種の実施を担当しています。

### Q2 委員会の構成メンバーはどのような職種、何人くらい？

感染対策委員会は病院長が委員会のトップ、感染対策チームは感染症のスペシャリストである河合副院長がトップとなっています。構成メンバーは医局・看護部（看護部長と師長）・事務部・検査科・栄養科・リハビリテーション科・作業療法科・デイケア科・歯科・薬剤科から構成されており、それぞれ各部署の責任者が1名参加しています。実際には、委員会と実働部隊である感染対策チームのメンバーが兼任している部署もあります。

### Q3 今までで大変だった事、委員としてやりがいを感じた事はありますか？

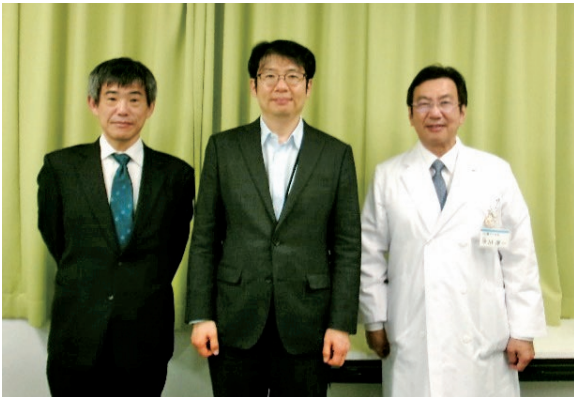
何といっても新型コロナウイルス感染症は大変でした。発生当初は、感染したら確立した治療法もなく、死亡率も高い感染症でしたので、患者さんに感染させないためにどうすれば良いかという事や、感染者が発生したらどのように対応するか皆でかなり頭を悩ませました。それでも、皆で一つの目標に向かって必死になって立ち向かう事は滅多に体験できることでは無く、やりがいも感じられました。特に感染初期のマスクが全くない状況の際には、院長が全職員の為にマスクサポーターを配布してくれたことは今でも忘れられない出来事でした。

今では、新型コロナウイルス感染症はワクチンや治療薬が出来てきたこともあり、ある程度の対策をすることが出来る感染症になりました。それでもまだ、インフルエンザ感染症などと比べても死亡率が高く、ワクチンについて正しい知識を持てるように勉強会をする等の活動や職員一人一人の感染対策のレベルアップのために活動を続けて行きます。



研修の様子

## 厚生労働省（吉田 審議官、小林 精神・障害保健課長）が来訪されました



【写真左より】小林 秀幸 精神・障害保健課長、  
吉田 修 審議官、平川院長



院内視察風景

昨年末に厚生労働省の吉田修審議官及び小林秀幸精神・障害保健課長2名が当院へ来訪されました。当日は、院長による病院概要や精神科医療についての説明後に院内を視察されました。

## 2025年1月1日 お正月メニューのご紹介



## おしながき

赤飯、清し汁、炊き合わせ  
豚角煮、伊達巻き、お浸し  
絵馬蒲鉾、スモークサーモンローズ  
きんとん

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。栄養科一同

## 編集後記

2025年の干支は巳（へび）。蛇には医療に携わる深いエピソードがある。蛇の表面が傷ついても脱皮をすることで傷のない姿に蘇る性質から、あらゆる病人を治し、冷たくなった人を生き返らせたという。そのため、医療・医術の象徴として広く用いられているシンボルマークとして使われている。医療技術が日々進歩する中、能登半島を襲った震災から丸1年、また阪神淡路大震災からも30年を迎える今年は地震や豪雨といった災害対策、皆で意識したい。

## 医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

